

重要な構成要素「^{まつや}松屋の^{あめ}飴総本店」

建築：不明

参道の景観を構成する要素

「松屋の飴総本店」は、飴を専科に販売する２階建ての店舗で、小規模間口、^{ひら}平入り^(注)の町屋です。1868（明治元）年に深川（江東区）で創業し、1934（昭和９）年に柴又に移ってきたと言われています。

現在の店舗がこの年代に建てられたものかどうかは不詳ですが、外見からは大正～昭和初期の木造２階建て建築の特徴が見られます。

参道側からはガラス越しに店内での飴製造過程を見学することができ、生産から商品陳列、店頭販売に至るいきいきとした生業の様子に触れることができます。

軒庇下で商品を店頭販売し、軒庇上には看板を置き、週末にはまな板をリズムカルに叩く飴切りが実演され、参道の賑わいを演出しています。

近年、ファサードの改修がなされ、^{ひさし}庇上に新しい看板が設置されました。



昭和 40 年代（帝釈天題経寺提供）

（注）建物の大棟に平行な面、すなわち平に出入口を設ける建築形式。また、平を正面に向けるもの。（広辞苑第七版）